

電気通信大学メガリスク型災害研究ステーション・ 福島大学つくしまふくしま未来支援センター共催 シンポジウム

「福島復興の課題と研究者の役割」

日時 : 2014年3月17日(月) 13:00～17:00

場所 : 電気通信大学東地区総合棟306号室

13:00～13:10 開会挨拶

三橋 渉(電気通信大学研究戦略担当理事)

13:10～13:20 趣旨説明

山本佳世子(電気通信大学メガリスク型災害研究ステーション長)

13:20～14:10 基調講演「原災地ふくしまの復興と研究者の役割

—研究フィールドから支援フィールドへの転換を求めて—

山川充夫(帝京大学経済学部教授, 福島大学客員(特命)教授)

14:10～14:50 講演1「除染と復興と帰還と移住」

川崎興太(福島大学共生システム理工学類准教授)

14:50～15:00 休憩

15:00～15:40 講演2「原発事故・風評問題による福島県農業への
影響と復興課題」

小山良太(福島大学経済経営学類准教授)

15:40～16:20 講演3「マクロバランスと除染集約型復興政策」

藤本典嗣(福島大学共生システム理工学類准教授)

16:20～16:40 総合討論

16:40～17:00 総括・閉会挨拶

水戸和幸(電気通信大学大学院情報理工学研究科准教授)

お問い合わせ・申し込み先

電気通信大学 大学院情報システム学研究科 山本佳世子

E-mail: k-yamamoto@is.uec.ac.jp



電気通信大学メガリスク型災害研究ステーション・ 福島大学うつくしまふくしま未来支援センター共催 シンポジウム

「福島復興の課題と研究者の役割」

開催趣旨

2011年3月11日に東日本大震災が発災し、そろそろ3年が経過しようとしています。これまでのわが国の災害の経験から、発災後3年以降は徐々に災害に関する意識が低くなりますが、被災地の人々にとって苦悩が始まるとともに、様々な問題が新しく発生することが知られています。

一方、電気通信大学では災害研究に関して福島大学と協定を結び、研究者としての復興支援に取り組んでいます。しかし、遠隔地であるため情報が少なく、被災地でどのような研究ニーズがあるのか把握することが困難な状況です。

そこで、電気通信大学・メガリスク型災害研究ステーション、福島大学・うつくしまふくしま未来支援センターとの共催シンポジウムを開催し、福島県内で復興に取り組む福島大学関係者に、復興の課題と研究者の役割についてご講演いただきます。さらに、本学の教員、学生だけではなく、関連学協会に広く周知し、学外からの参加者も含めて、災害研究の展望について議論を行います。

お問い合わせ・申し込み先

電気通信大学 大学院情報システム学研究科 山本佳世子

E-mail: k-yamamoto@is.uec.ac.jp